

1 学校教育目標 教育目標：豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する。 中期的目標：1 豊かな人間性と確かな学力の育成 2 個性と創造性の伸長 3 商・工の専門性と汎用性の追求 4 望ましい勤労観と職業観の形成	
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) 1 生徒の進路実現に向けて組織的・協働的な取組を一層推進していくとともに、実社会から求められる人材の育成や大学入試制度改革への対応等に全校体制で取り組んでいく必要がある。 2 継続的な授業の工夫・改善を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現による確かな学力の育成と学習評価の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。 3 学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールとして持続性のある地域連携教育を推進し、学校運営を計画的、効率的に進め質の高い教育と教職員の働き方改革を推進する必要がある。	
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題(社会人基礎力の育成) 1 地域とともにある学校づくりといきいき環境づくり ・コミュニティ・スクールの仕組みを活かした地域連携教育の推進 ・安心・安全に配慮した教育環境づくりと行動実践 ・地域や伝統、文化への理解を深める教育活動の充実 2 将来への道づくり ・個に応じたキャリア教育の推進、組織的な就職・進学体制の整備 ・連携や協働による幅広い視野や見識を身に付けた産業人材の育成 ・よりよい価値の創造に向けて、一歩前に踏み出す力の育成 3 輝く人づくり ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる生徒の育成 ・いのちと人格を尊重する心や態度の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」による確かな学力と表現力の育成	
本年度のチャレンジ目標 follow your dreams ～夢を叶えるためにがんばろう～ ○ 就職100%達成 ○ 進学第一希望100%達成 ○ 資格取得 ・商業：全商1級3種目以上合格 ・工業：ジュニアマイスターシルバー取得 ○ 読書年間12冊以上 ○ 自ら考え、判断し、行動する高校生	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
地域連携	・コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、学校支援・地域貢献の双方で、学び合い・教え合いの活動に取り組み、持続可能な地域連携教育の推進	・事業所や行政機関での実習、外部講師を招聘した講演会の開催、地域住民を対象とした開放講座等を実施する。	4: 学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が70%以上であった。 3: 学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が50%以上であった。 2: 学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が50%未満であった。 1: 学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が30%以下であった。	4	教職員の88.7%、保護者の98.9%から肯定的な回答(「そう思う」「だいたいそう思う」)を得ており、当初目標に対して高い評価を受けている。 コミュニティ・スクールとしての活動が3年目を迎え、学校運営協議会の仕組みを生かした地域貢献・学校支援の両面で、学校と地域が課題を共有しながら活発な教育活動を展開した。引き続き、本校の教育活動の柱の一つである地域連携教育の充実に向け、地域とともにある学校づくりを推進する。 今後の課題としては、学科の枠を超えた教育活動の充実や、人材育成等が挙げられる。	大人のコミュニティ・スクールの印象である。 学校の強みをしっかり生かしている。	4
CT	・希望進路の実現に向けた継続的な学習	・各自が目標を持って希望進路の実現に向けた課題に取り組むことができるように、様々な場面を設定する。	4: 「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が90%以上であった。 3: 「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が75%以上であった。 2: 「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が50%以上であった。 1: 「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が50%未満であった。	2	3年間を通して、CTの時間を活用してきた3年生のアンケートを基に診断・分析を行った。 70%を超える生徒がそれぞれの進路希望に応じて、自主的に取り組み、成果をあげることができたと感じている。しかし、時間を主体的に有効に活用することが困難な生徒も増えており、いかに支援していくかが課題である。	一人ひとりの生徒の意識の高さを感じる。 活動をPRすることが大切である。	3
校務	・各学校行事の円滑な推進と情報共有。	・各学校行事において、各部署との連携強化と行事の円滑化に努め、そのための情報とノウハウの共有・継承を図る。	4: 学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が90%以上であった。 3: 学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が80%以上であった。 2: 学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が70%以上であった。 1: 学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が70%未満であった。	2	各部署の情報交換による業務のスムーズな遂行という点では、そう思うが4.5%、だいたいそう思うが68.2%であわせて72.7%と評価が高いとは言えない。改善すべき点としては部署ごとの担当行事について1年間の全体の中で関連して積み重ねとなるような位置づけについての共通理解が不足していること、昨年と本年度の比較的大幅な人事の異動の中で、本校の勤務経験のある方が転勤され、新たな人材が増える中で、従来行われてきた行事の意味とノウハウが充分継承しきれなかったこと、同時に新しい方たちの力を生かし切れていなかったことがあると思われる。今後の本校教育の発展と充実に向けて、行事に限らず業務の遂行と継承について議論と共通理解の進化を目指していきたい。	SNS等を活用し、教育活動に関する情報の発信や共有を行うとよい。	2
渉外	・保護者・外部団体・地域との連携の継承・発展と内容充実	・PTA、同窓会、外部団体、地域との積み重ねられた連携を継承・発展し、地域連携教育の充実と寄与する。	4: 定期的もしくは事前の打ち合わせ、連絡調整等ができ、予定どおりの行事の実施を達成し、同窓会・PTA・外部団体・地域との連携により発展させその充実と質が向上したと見られた。 3: 事前の打ち合わせ、連絡調整等の準備ができ、予定どおりの行事が実施され、地域との連携の発展ができた。 2: 事前の打ち合わせ、連絡調整等がやや不十分で、行事の実施や連携の発展等に課題が残った。 1: 打ち合わせ、連絡調整等が不十分のため、問題点が発生し、行事が滞り、新たな課題や改善すべき所が見つかった。	4	昨年引き続きPTAとしてスクールフェスタに参加していただいた。「ため防焼き」の店舗はやはり生徒達から好評を得、今年度は天神まちかどフェスタで「ため防焼き」を販売するクラスに技術・ノウハウを継承するため共同で作製・販売を行い、より連携を進展させたと言える。天神まちかどフェスタでは、準備段階から多くの役員・保護者、地域の皆様のご協力を得ることができた。当日は好天に恵まれ、恒例となっている合格うどんや焼きちくわに加え、新たにギョロツクの調理・販売に挑戦して好評を得ると同時に、来年度に向けて新たなアイデアを持たされ、成功のうちに終えることができた。今後もさらに、保護者・地域のみならずコミュニケーションを十分取りながら、学校の教育活動全般において連携を一層深め、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。	SNS等を活用して、卒業生を学校の教育活動に巻き込む仕掛けを作るとよいのではないかと。	4
教務	・主体的な学習態度の育成	・検定試験への挑戦や学校行事への積極的な参加など目的を持った学習活動を通じ、主体的に学ぶ態度の育成と基礎学力の定着を図る。	4: 授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣が十分定着したと見られた。 3: 授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣がおおむね定着したと見られた。 2: 授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣があまり定着したとは見られなかった。 1: 授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣が全く定着したとは見られなかった。	2	授業アンケートの結果から見ると、約80%の生徒が当日の授業や実習に十分準備をして臨んでいる。課題等の提出についても、80%以上の生徒が期限までに提出できたと答えている。しかし、授業の予習が不十分な生徒が60%程度あり、復習など授業の振り返りが不十分な生徒も約50%程度いる。商業科・工業科ともに検定試験等には意欲的であり、これらと関連した目標をもった学習活動を通じて家庭学習の定着へとつなげていきたい。また、日々の課題については、きちんとする意識は強いので、与えられた課題だけでなく、生徒自らが主体的に学習に向かうよう、取組の工夫・改善に努める。	学びたい内容、雰囲気作りが重要である。	2
	・授業力の向上	・授業アンケート、公開授業や教員間の授業見学、研究授業等の研修を通して授業の質の向上に努める。	4: 授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が5%未満であった。 3: 授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が7%未満であった。 2: 授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が10%未満であった。 1: 授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が10%以上であった。	3	生徒に対する授業アンケートの結果では、「授業の狙いやポイント」「教員の授業に対する準備や工夫」「授業の進捗は適切である」に関するマイナス評価は5%以下であったが「生徒の様子を見ながらの授業の進め方」「授業や実習がわかりやすくなるような工夫」に関するマイナスの評価が若干(0.1~0.4%)ではあるが5%を超えた。今まで以上に生徒の様子を確認しながら、授業を行うように気を付けるたい。今後も生徒からの意見等を参考にしつつ、授業内容の更なる精選と授業の質の向上に努める必要がある。	資格取得は働く上で必要となる要素の一つではあるが、取得することが目的になってはならない。	3
図書	・読書習慣の定着と内容の充実。	・朝の読書の時間等を通して、読書習慣を定着させる。 ・「図書だより」の作成等、委員会活動を通して図書館の利用促進を図る。	4: 全校生徒の半数以上が年間12冊以上の本を読んだ。 3: 全校生徒のほとんどに読書習慣の定着が見られた。 2: 全校生徒のほとんどに朝の読書が定着している。 1: 全校生徒の多くに読書習慣の改善がみられなかった。	2	12月末現在のアンケートを集計したところ、チャレンジ目標の年間12冊以上読書した生徒の割合は20%程度で、今年度も昨年度と同様の結果であった。クラス別に達成状況を見ると、33%から0%まで、クラスによる偏りがみられた。図書の貸し出し冊数については昨年度比1.9倍になっており、1年生と3年生で大幅に増加している。一方、2年生では減少しており、読書冊数も12冊以上の生徒は13.6%に過ぎなかった。現1年生の読書習慣を維持しつつ、来年度の3年生への動機づけを図ってきたい。	図書室ではなく、自分で購入した本を読む生徒もいると思う。年間12冊以上は読んでいるのではないかと。 図書室の利用率を上げる方策を考えてみてはどうか。	2
指導	・「いじめを許さない学校づくり」	・生活(いじめ)アンケートの実施や個人面談等を通じて、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消に努める。	4: 学校が認知したいじめについて、解消率が100%であった。 3: 学校が認知したいじめについて、解消率が80%以上であった。 2: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%以上であった。 1: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%未満であった。	3	いじめの認知件数は9件であった。昨年度より件数は増加しているが、生活アンケートや生徒への面談などを通じて、積極的に認知していると好意的にとらえている。解消率は、少なくとも3か月以上の経過観察が必要と100%には至っていないが、概ね解消に向かっている。学校全体で、いじめを未然防止、早期発見・対応できる体制づくりやいじめ認知能力の向上、情報モラル教育などの活動に取り組んでいく。	認知のための仕組みの確立等、しっかりしている。	3
	・「校則を守る」など生徒の規範意識の向上	・頭髪服装検査等を通じて、防府商工高校の生徒として身だしなみを整えることへの意識を高める。	4: 学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%未満であった。	4	「校則や決まり事を守っている」という項目に対し、「そう思う」と答えた生徒が30.8%、「だいたいそう思う」と答えた生徒が63.9%となっており、あわせて94.7%という結果であった。ルール等を守りながら前向きに高校生活を送っている生徒像が読み取れる。頭髪や服装については、特定の生徒にルール違反が集中するが、校則や決まりごとの意味を理解させつつ、粘り強く指導を続けたい。	街頭での姿は非常に模範的である。	4
特活	・学校行事等の活性化	・学校行事(スクールフェスタ・スポーツフェスタ等)・各種委員会・部活動等において、積極的・主体的・創造的に取り組む態度を育て、活性化を図る。	4: 学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が70%以上であった。 2: 学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が60%以上であった。 1: 学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が60%未満であった。	4	「防府商工三大フェスタ(スクールフェスタ・天神まちかどフェスタ・スポーツフェスタ)等、学校行事が充実している」の項目に対し、「そう思う」と答えた生徒が37.4%、「だいたいそう思う」が52.6%となっており、あわせて90%という結果であった。一昨年度より防府商工三大フェスタとして実施しているスクールフェスタ・スポーツフェスタを生徒たちが主体となって企画・立案し、保護者に公開して行なっている。生徒会を中心に準備から片づけまで行い、各種委員会や部活動が積極的に協力して運営した。昨年度も約90%が「そう思う」、「だいたいそう思う」と答えていたが、「そう思う」と答えた生徒が約60%から今年度は約37%と大きく減少している。今年度の反省を活かし、今後も生徒の意見をしっかりと聞き、生徒の主体性を大切にして、心に残る学校行事を運営していきたい。	地域からの関心が非常に高い。	4
安全	・交通安全意識の向上と交通事故の防止	・駐輪場指導を毎日実施する。 ・交通安全啓発活動に積極的に参加する。	4: 交通事故の発生件数が10件未満であった。 3: 交通事故の発生件数が15件未満であった。 2: 交通事故の発生件数が20件未満であった。 1: 交通事故の発生件数が20件以上であった。	4	今年度、交通事故の報告件数は2件であった。いずれも登校中における自転車事故であった。その他、近隣の住民の方より自転車のマナーについて苦情を数件受けている。今後は、交通事故防止や交通マナーの徹底を、交通委員の諸活動や教員による朝の立番指導、講習会を通して、交通安全意識の高揚に努める。	街頭での姿は非常に模範的である。	4
保体	・安全、安心に配慮した教育環境の整備	・日々の掃除を徹底し校内の環境整備に努めるとともに、幸せますまちづくり運動や幸せ清掃隊等の活動を通じて地域の環境整備にも努める。	4: 学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが90%以上であった。 3: 学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが80%以上であった。 2: 学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが70%以上であった。 1: 学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが70%未満であった。	4	学年単位で行う「幸せますまちづくり運動」に関しては、年3回計画通り実施した。清掃活動を通じて地域の様子を肌で感じ、地域のために一生懸命取り組むことで公共心や勤労観等を養っていかけてと実感できた。幸せ清掃隊の活動は、毎月4つの日に実施した。週休日や試験期間中を除き昨年度9回のところ今年度は14回の活動実績である。委員会活動としてだけでなく、部活動や一般生徒からのボランティアを募ることで学校全体の取組みとなり、昨年度よりも多くの生徒が積極的に参加するようになった。今後も環境美化の意識を学校内外へ情報発信できるように積極的に活動を行ってきたい。	街頭での姿は非常に模範的である。	4
相談	・教育相談体制の充実	・生徒がより良い学校生活を送ることができるよう、関係教員や専門機関と連携を取りながら、不安や悩みの解消をサポートする。 ・発達障害を抱える生徒等については、SCや地域コーディネーターとの連携を図り、対応していく。	4: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが80%以上であった。 3: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが70%以上であった。 2: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが60%以上であった。 1: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが60%未満であった。	4	・生徒部が実施する生活アンケート等を参考にしながら、生徒の不安や悩みを確認し、必要に応じて担任等と連携を取りながら個人に相談活動を行った。自主相談だけでなく、呼び出し相談も行い、生徒の不安や悩みの解消をサポートした。 ・発達障害を抱える生徒本人及び保護者の要望を聞き、SCの助言を受けながらソーシャルスキルトレーニングを行った。また生徒の特性を知るために地域コーディネーターに相談をし、諸検査を実施した。	コミュニケーションの取り方が上手くない子どもが多い。経験と振り返りが人を成長させることから、「経験」や「発表」の場づくりが必要である。	4

就職	・就職希望者が自分の望む職種に全員合格(就職内定100%)	・学年に応じた進路指導を実践し、勤労観・職業観を育成するとともに、適切な進路情報を提供する。 ・積極的な企業訪問を実施し求人確保を確保する。	4: 就職希望者の100%が就職内定を得た。 3: 就職希望者の90%以上が就職内定を得た。 2: 就職希望者の80%以上が就職内定を得た。 1: 就職希望者の80%未満が就職内定を得た。	4	求人数が述べ1,000件を越える状況が3年目に入り、今年度は過去最高の求人をしていただいた。公務員から就職希望に切り換えた生徒もスムーズに就職活動が進み、就職希望者108名について全員の就職先が内定した。今後も様々な場面で生徒の職業観の育成に努め、就職に対する意識を向上させるとともに、積極的な求人確保に尽力したい。	シビック・プライドの醸成や防府市への定住促進に貢献して欲しい。	4
進学	・多様化する入試形態に対応した進学希望者の希望進路の実現	・生徒および多様化する進学先の、年々変更される情報収集を随時行い、個々の志望進路の実現に向けて、適切なサポート(アドバイスや対応策の研究・指示)を実施する。	4: 進学希望者の90%以上が第一希望の進路先に合格した。 3: 進学希望者の75%以上が第一希望の進路先に合格した。 2: 進学希望者の60%以上が第一希望の進路先に合格した。 1: 進学希望者の60%未満が第一希望の進路先に合格した。	4	年度当初から、小論文指導、推薦・AO入試対策指導を複数の教員で取り組んだ結果、進学希望者のほとんどが第一志望に合格した。生徒一人ひとりの希望を叶えるために、個人指導、集団指導などの学習援助の充実を図るとともに、個人面談や保護者への情報提供等、きめ細い配慮を行った。次年度以降も生徒の進路実現に向けて、校内の指導体制の充実に努めたい。	シビック・プライドの醸成や防府市への定住促進に貢献して欲しい。	4
情報	・積極的な情報発信	・個人情報に配慮しながら、公式Webサイト等を利用して、学校の情報を適正に発信する。	4: 公式サイト等の月間更新回数が5回以上であった。 3: 公式サイト等の月間更新回数が3回以上であった。 2: 公式サイト等の月間更新回数が1回以上であった。 1: 公式サイト等の月間更新が無かった。	4	広報委員会(生徒)主体の本校Facebookを立ち上げて3年目となり、週1回のペースで生徒目線での情報発信ができた。また、今年度から新たにInstagramも立ち上げて、情報発信を始めた。SNSを利用することで情報発信の頻度が上がると同時に、気軽に本校の情報にアクセスできているのではないかと考えている。だが、知名度がまだ低いという課題がある。	SNSなどで発信しているにもかかわらず、本校関係者(特に教職員)が受信していない。 関係者以外のアクセス向上を図って欲しい。 市内での認知度は抜群である。	4
専門	商業 ・ビジネスに関する知識・技能の確実な定着と主体的な学習態度の育成	・指導の工夫と改善を通じ、より上位級の検定試験に挑戦する雰囲気づくりを行う。	4: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の50%以上であった。 3: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の40%以上であった。 2: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%以上であった。 1: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%未満であった。	4	今年度商業科・情報処理科3年生のうち3種目以上1級合格者の割合が72.2%(114人/158人)(1月10日現在)で、70%を超え、8種目1級合格者も3人であった。資格取得に対する期待は強く、今後とも資格取得という明確な目標設定で、生徒の主体的学習を促しながら、指導・支援を続けていきたい。	2回のコミュニティ・スクールの発表から、日ごとの授業の様子が感じられる。	4
	工業 ・エンジニアとしての意識を高め、工業人としての知識・技能・人格を備えた人材の育成	・資格取得に積極的に取り組み、エンジニアとしての基礎知識と技能を身に付ける。機械科3学年全体で、マイスタポイント2500ポイントを目指す。昨年度は評価1であったが、熱意を持って取り組む。	エンジニアとして技能を習得し、資格取得に挑戦させる。 ジュニアマイスターポイント機械科生徒3学年238名で 4: 2500ポイント以上かつ3年ジュニアマイスター50名以上 3: 2200ポイント以上かつ3年ジュニアマイスター45名以上 2: 1900ポイント以上かつ3年ジュニアマイスター40名以上 1: 1900ポイント未満かつ3年ジュニアマイスター40名未満	3	機械科のジュニアマイスター受賞者は、H30年度は31/79(39.2%)と30%台であったが、本年度は、40/79(50.6%)であり向上した。 また全校生徒のポイント取得は、H30年度は1月末は2093ポイント、本年度は、1468ポイントと625ポイント少ない。これらの原因として、技能検定受験は希望受験に変更、危険物取扱者試験(乙種第四類)の合格率が非常に悪いことがあげられる。しかし、優秀な成績でポイントを獲得した生徒が多い。	2回のコミュニティ・スクールの発表から、日ごとの授業の様子が感じられる。 山口県農業大学校との事業連携はすばらしい。	3
業務改善	学校の組織等	・分掌間及び分掌内の個人間で、校務処理の範囲、方法・流れ等を明確にする。	4: 学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が80%以上であった。 3: 学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が70%以上であった。 2: 学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が60%以上であった。 1: 学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が60%未満であった。	3	教職員を対象とした学校評価アンケートの「各分掌は、PDCAサイクルによって業務が遂行されている」という質問項目に対して、77.2%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答した。また、「各分掌毎の情報交換により、業務がスムーズに遂行されている」という質問項目に対しては、72.7%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答した。職員会議を通して、山口県及び本校における教員の年齢構成について説明し、分掌業務に関する情報共有や引継ぎの重要性について意識の高揚を図った。次年度は、分掌業務の削減・再編を進め、業務改善を推進していく必要がある。	年齢、経験に合わせた業務配分が必要である。 業務の洗い出しを行い、削減できる業務を見つけていくことから始めることとよい。	3
	日常的な業務	・運営委員会や職員会議での議題について、協議事項や連絡事項を事前に伝えるとともに、会議を円滑に進行することで会議の効率化を図る。	4: 勤務時間内に全ての会議が終了した。 3: 勤務時間内での会議終了が80%以上であった。 2: 勤務時間内での会議終了が60%以上であった。 1: 勤務時間内での会議終了が60%未満であった。	2	運営委員会はおおむね勤務時間内に終了したが、職員会議は勤務時間を超過して終了することがほとんどであった。会議の回数を削減することで、1回の会議で共有すべき情報や協議する事項が増えていることが要因と考えられる。SNS等のツールを活用し、会議での情報共有の時間を削減することで、会議時間の削減を図りたい。	PCを利用し、事前にPDFファイルで資料を配付、目を通していただき、職員会議を行うと時間短縮と資源節約に繋がるのではないかと。	2
	勤務状況	・学校閉庁日や部活動の休業日の設定及び年休・代休・職専免等バランスの良い組み合わせを奨励し、時間外業務の平均時数を削減する。	4: 時間外業務の年間平均時数が前年度よりも20%程度減少した。 3: 時間外業務の年間平均時数が前年度よりも10%程度減少した。 2: 時間外業務の年間平均時数が前年度よりも5%程度減少した。 1: 時間外業務の年間平均時数が前年度よりも増加した。	2	休暇を取得しやすい雰囲気・環境作りや、教員一人ひとりに声掛けを続けたことにより、昨年度よりも時間外業務の年間平均時数は6%程度減少しているが、十分な成果はあげられなかった。削減が進まない大きな要因である「部活動の指導」について、効果的な方策を検討・実施する必要がある。	部活動だけでなく、他の業務で時間が伸びていないか調査をする必要があるのではないかと。	2
	教職員の健康の保持とワークライフバランスの推進						

6	学校評価総括(取組の成果と課題)	<p>【未来デザイン部】地域連携活動については、地域貢献と学校支援の両面で関係者間で情報を共有しながら積極的な取り組みを行うことができた。CTについては、一部の生徒が各自の目標を明確にしながら取り組みを行うことが困難になってきており、個に応じた支援を検討していく必要がある。</p> <p>【総務部】業務の遂行について、実行については分担に配慮できた所もあるが、計画・準備の段階からの共通理解の構築については不足していた面もある。今後のことを考え、業務当初からの共通認識の確立に努めたい。また、PTAとの諸行事を通じての協力関係については滞りなく遂行できたと思われる。今後とも、その維持・発展に務めたい。</p> <p>【教務部】授業アンケートの結果を見ると授業内容に対する評価や授業に対する取り組み、課題提出に対する意識は高い。予習・復習等、自主的な取り組みに関しては、まだ半数近くが不十分と判断しており、目的意識を高めるため、より工夫が求められる。</p> <p>【生徒部】いじめの問題について、報道相が機能する組織づくりや各種シートを作成することで、情報の共有や一部の教員で情報を抱え込むことはある程度解消されたと考えられる。学校行事では、生徒会役員との話し合いの場を増やし、柔軟に企画・運営をすることができた。クラスマッチのグループ分け等、運営方法の改革を行ったが、日程変更のため実施には至らなかった。頭髪服装指導などの校則等において、一定の成果がアンケートからは読み取れるが、まだまだ十分ではないので、キーワードである「いつでも面接が受けられる服装」を生徒や教職員に周知し、基準の明確化や専門高校としての姿を理解させながら指導していきたい。交通関係では、通学路の危険箇所を全校生徒へ調査し、市職員と警察交番担当者との立会いの下、カーブミラーの角度等、2カ所を改善した。立哨指導についても、生徒部の教員を中心に校門付近に留まらず、危険箇所で立哨指導を行った。交通事故の件数は昨年度と大差ないが、事故後の対応等に課題が見られたので、来年度の課題とする。駐輪場の整理・整頓や登校時の挨拶活動にも課題が残る。</p> <p>【健康部】保健課については「幸せますまちづくり運動」を10年継続して実施したことが認められ「やぐちエコーダースクール」として認証された。今後も積極的な取組を継続し、環境教育を継承したい。人権教育相談課では、相談業務を中心に据え生徒を支えるとともに、今年度よりソーシャルスキルトレーニングを開始し、発達障害等の生徒の自己実現を支援した。</p> <p>【進路部】就職については、積極的な企業訪問による求人確保や学校をあげての就職希望者への指導が実を結び、就職希望者全員の就職内定を得ることができた(就職内定率100%)。108名の就職者のうち、県内就職者99名で地元社会へ貢献できる人材の育成を達成することができた。(県内就職率91.7%)進学については、専門高校の特権を生かしたカリキュラムのもと、課外授業や外部講師による講義をはじめ、個別指導の充実が成果を上げ、受験者の97.5%が第一志望の進学先に合格した。また、国公立大学合格者が17名と高水準を維持した。</p> <p>【情報部】広報委員主体の本校Facebookを立ち上げて3年目、今年度はInstagramの利用も始めた。目標の週1回のペースでの情報発信ができた。今後の課題は、知名度を少しずつでも上げていくこと、ニーズをふまえた内容の検討である。</p> <p>【商業】生徒の資格取得への意欲の高さと教員の環境作り、指導・支援の成果として、今年度も多くの生徒が全商検定1級を取得できた。(4年ぶりに120名を超えた)ただ、合格するだけの学習にならないようにするために指導の充実を図ってきたい。</p> <p>【工業】実習や座学を通じての専門的な知識は身に付けることはできた。資格取得においては、危険物甲種や機械検査2級の上位に挑戦し合格する生徒がいる一方、意欲の低い生徒がいる。資格取得全体の底上げを図る必要がある。</p> <p>【業務改善】校長面談等を利用して教職員に対してヒアリングを実施し、分掌や部活動の業務における課題を把握するとともに、解決策等の提案を実施したところ、時間外業務時間の削減に一定の成果はみられたが、十分とはいえない数値となった。</p>
---	------------------	---

7	次年度への改善策	<p>【未来デザイン部】地域連携活動については、学科間の連携を更に推進していく。また、CTについては、生徒の自主的な活動を支援する体制を整えていく。</p> <p>【総務部】担当業務の準備・内容、他分掌・学年との連携、時期等について、分掌内で共通認識を持ち、適切な分掌と業務の継承に配慮する。また、PTAとの協力関係の維持・発展に努めると同時に、フェスタ等地域とのさらなる関係発展にも配慮していきたい。</p> <p>【教務部】検定週間などを利用して、専門科目に対する興味・関心を高めるとともに、一般常識・教養を高めるため、各教科が連携し、生徒の学習意欲を高めていくことを考える。</p> <p>【生徒部】いじめを懲戒規定に加えるなど、今後検討していく必要があると考える。いじめの問題に対する知見を深めていくため、外部講師(弁護士や携帯会社等)の活用等、継続的な指導や研修会を生徒や教職員に実施したい。学校行事について、「学校評価アンケート」だけでなく、行事後の振り返りアンケートをもっと活用していきたい。校則については、風紀委員の活動等を利用して、スモールリーダー的な生徒を育て、規則を守る意識を高めさせたい。立哨指導では、遅刻指導中心となっている現状から、登校時の服装や挨拶指導への意識をもっとつけたい。週番長や週番生徒への指導体制の整備をしていきたい。また、「体育的行事の運営」「学校指定ポロシャツ」「女子用スラックス」などの新たな取組の定着も計画的にしていきたい。</p> <p>【健康部】環境教育については、一部の生徒の活動にならないように、多くの生徒が積極的に参加し学校全体の活動となるよう、さらに積極的な情報発信ができるよう工夫したい。また、日々の清掃活動を通して、校内の環境整備を徹底することで環境美化の意識を醸成させることに努めたい。人権教育相談課では、通級指導に関する研鑽を積むとともに関係機関と連携することにより、健常児はもとより障害のある生徒が、日常生活での不安を軽減できるよう指導していきたい。</p> <p>【進路部】進路に関する全体指導及び個別指導を充実させたことにより、今年度も就職・進学ともに好結果を残すことができた。次年度に向けてPDCAサイクルを活用し、生徒本人と保護者のニーズに合った、より一層きめ細かい進路指導に取組みたい。</p> <p>【情報部】知名度を上げるために、様々な機会を捉えたり、ため防利用したりして広報していきたい。ニーズについては、新入生などを中心に聞き取りを検討したい。</p> <p>【商業】資格取得意欲の向上を図るとともに、検定合格だけでなく、「学習内容を理解し身に付けること」や主体的に取り組むことへの重要性について指導する。</p> <p>【工業】資格取得において、教員の補習のみに頼り自ら学習していない現状がある。専門教科、資格取得に限らず、自ら結果を求め、学習する意欲を身に付けさせたい。</p> <p>【業務改善】SNS等のツールを活用し、会議での情報共有の時間を削減することで、会議時間を削減する。また、部活動指導員等を活用して、部活動における業務の標準化を図る。</p>
---	----------	---